

笹川記念保健協力財団 地域啓発活動助成

(西暦) 2018 年 2 月 14 日

公益財団法人 笹川記念保健協力財団  
会長 喜多悦子 殿

2017 年度地域啓発活動助成

活 動 報 告 書

標記について、下記の通り活動報告書を添付し提出いたします。

記

活動課題

親ががんに罹患している子どものサポートプログラム

活動団体名： 学校法人 帝京大学

活動者（助成申請者）名： 南川 雅子

## I. 活動の目的

国立がん研究センターの推計によると、わが国全体で1年間に新たに発生する18歳未満の子どもがいるがん患者の数は56,143人、その子どもたちの数は87,017人、また1つのがん診療連携拠点病院では、1年間におよそ82人の18歳未満の子どもを持つがん患者と128人の子どもたちが新たに発生している。結婚年齢や出産年齢の高齢化に伴い、がんの親をもつ未成年の子どもは、今後ますます増加するものと思われる。特に認知的発達の途上にある学童期の子どもは、親ががんに罹患したことを知らされると、「自分のせいではないか?」「自分にもうつるのではないか?」と自己中心的な考えを持つ、成績不振、腹痛や頭痛などの身体症状の発現、情緒不安定、好きだったことをしなくなるなど、大人と異なる反応を示す。このような子どもが、変化した親子の関係性や自身の気持ちの変化に対処するためには、がんに直面している子どもの両親ではなく、第三者の大人による特別なサポートが必要とされている。

我が国では、親のがんを知らされた子どもを対象としたプログラムとして CLIMB<sup>®</sup>がいくつかの施設で展開されている。CLIMB<sup>®</sup>は、子どもの内在する肯定的な力を引き出し、孤立感を軽減し、安心感を高めるのに有用であると言われている。一方で、構造化されたプログラムであり、各セッションで取り扱う感情が決められているため、子どもが自由に感情表現することが難しいだけでなく、活動全般に渡って子どもに主導権がなく、受け身になってしまうというデメリットがある。そこで米国のダギーセンターモデルによる子どものグリーフサポートプログラムなども含めて比較検討した。その結果、ダギーセンターモデルを基盤とし、①子どもが安心できる場を提供する、②子どもの主体性を尊重する、③がんという病気や治療に関する知識を提供する、④自由な感情表出を促す、⑤仲間意識を醸成する、⑥活動を長期的に継続するという6つのポリシーに基づき、学童期の子どもが、親ががんになったことで体験する日常生活の変化や自身の感情の変化に対処するためのレジリエンスを高めることを目的として、新たなプログラム「コアラカフェ<sup>®</sup>」を立ち上げ、活動を行うこととした。

## II. 活動の内容・実施経過

### 1. 活動の内容

コアラカフェ<sup>®</sup>の活動内容は以下のとおりである。

- プログラムのタイプ：ワンデープログラム
- 開催頻度：基本的に1か月に1回、第3日曜日に開催する。
- 1回の所要時間：2時間30分程度
- 開催場所：帝京大学板橋キャンパス4号館1階
- 事務局：帝京大学医療技術学部看護学科（代表：南川雅子）
- 運営メンバー（合計13名）：帝京大学医療技術学部看護学科教員4名、帝京大学医学部附属病院がん看護専門看護師1名、杏林大学保健学部看護学科教員3名、埼玉県立大学大学院研究科教員1名、岩手医科大学看護学部教員/精神看護専門看護師1名、筑

波大学人間総合科学研究科看護科学専攻博士後期課程学生 1 名、他 2 名。

● プログラム内容

順番	活動	内 容
1	プレ ミーティング	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ファシリテーターは、気持ちの切り替えを行う。</li> <li>・ ファシリテーターが、参加する子どもと保護者を確認する。</li> <li>・ ファシリテーターが、当日の活動内容を確認する。</li> </ul>
2	参加者来場	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 参加する子どもたちに名札をつけてもらう。</li> <li>・ 保護者は別室に案内する。 *保護者は子どものプログラムが終了するまでの間、希望する者が集まって茶話会を行う。茶話会のテーマは、最近の子どものこと、自分自身および配偶者のがん治療のこと、がん治療を通して感じていること等である。茶話会には 2 名のファシリテーターが参加する。</li> </ul>
3	はじまりの輪	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ この場所が特別な場所であり、親のがんのことや親ががんになって感じたこと等を自由に話してよいことについて理解を促す。</li> <li>・ ファシリテーターを含め全員が自己紹介を行う。誰ががんなのか、どこのがんなのか、治療しているのか・死んでしまったのか、等を含めて自己紹介を行う。</li> <li>・ この場で安全に過ごすためのルールを皆で確認する。</li> </ul>
4	遊び	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新しい仲間が参加する場合は、始めにアイスブレイキングを目的としたアクティビティを行う。</li> <li>・ その後、遊びを通して感情表出を促す。準備しているおもちゃで遊ぶ、絵を描く、グラウンドで球技をする等、一人一人の子どもが好きな遊びをする(子どもたちが一緒になって遊ぶこともある)。その間、ファシリテーターはリフレクションの手法を用いながら、子どもが発散するエネルギーの大きさに合わせて、1対1で子どもに寄り添う。</li> </ul>
5	おやつタイム	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ クッキーやせんべいなどのおやつと飲み物を準備し、子どもとファシリテーター全員で一緒に食べる。</li> </ul>
6	おはなし タイム	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 子どもにニーズがある場合には、その子どもの年齢や特徴に合わせた方法で個別に、がんという病気や治療、がんに関わる知識、死とは何か等を伝える。</li> <li>・ 子どもとファシリテーターが円形に座り、いくつかのテーマを準備し、各自がテーマに沿って話をする。</li> </ul>
7	遊び	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2 回目の遊びは、おはなしタイムで話すことによって、子どもの潜在的な気持ちや思いが活性化されることがあるため、それらに対するケアを行うことを目的とする。</li> </ul>

8	おわりの輪	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもとファシリテーターが円形に座り、行った活動を振り返る。</li> <li>特別な場から日常生活へ戻るために、気持ちの切り替えを行う。</li> </ul>
9	ポストミーティング	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者の茶話会のファシリテーターと、子どものプログラムのファシリテーターが集まり、プログラム実施中に見られた参加者（子ども・保護者）の反応等に関する情報共有を行う。</li> <li>今回の活動を振り返り、次回の活動に向けて改善点を出し合う。</li> <li>ファシリテーターが日常生活に戻るために、気持ちの切り替えを行う。</li> </ul>

## 2. 実施経過

今年度の助成を受けている間に行った活動は下表のとおりである。

2017年	
4月13日(木)	事前準備会議 出席者：コアラカフェ®事務局4名
4月16日(日)	コアラカフェ®開催 参加者：子ども4名、保護者3名、ファシリテーター・スタッフ9名
5月18日(木)	事前準備会議 出席者：コアラカフェ®事務局4名
5月21日(日)	コアラカフェ®開催 参加者：子ども3名、保護者2名、ファシリテーター・スタッフ11名
6月8日(木)	事前準備会議 出席者：コアラカフェ®事務局4名
6月18日(日)	コアラカフェ®開催 参加者：子ども2名、保護者1名、ファシリテーター・スタッフ7名 スーパーバイザー1名
8月31日(木)	事前準備会議 出席者：コアラカフェ®事務局4名
9月10日(日)	コアラカフェ®開催 参加者：子ども3名、保護者2名、ファシリテーター・スタッフ5名
10月6日(金)	事前準備会議 出席者：コアラカフェ®事務局3名
11月26日(日)	コアラカフェ®開催 参加者：子ども3名、保護者2名、ファシリテーター・スタッフ7名
12月26日(火)	コアラカフェ®コアメンバーミーティング
2018年	
1月9日(火)	事前準備会議 出席者：コアラカフェ®事務局4名
1月21日(日)	コアラカフェ®開催 参加者：子ども2名、保護者1名、ファシリテーター・スタッフ7名
1月23日(火)	板橋区学校保健研究部主催の勉強会で講義を行った（広報活動の一環で、依頼を受けて実施） テーマ：子どもへのがん教育—個別対応に焦点をあてて— 講師：南川雅子

1月27日(日)	対 象：板橋区立小学校の養護教諭・クラス担任 62名 ファシリテーター・スタッフ勉強会 テーマ：親ががんとの子へ病気や治療の伝え方 講 師：天野香菜絵（埼玉県立小児医療センター 認定チャイルド・ライフ・スペシャリスト） 参加者：コアラカフェ®ファシリテーター・スタッフ 9名
2月9日(金)	事前準備会議 出席者：コアラカフェ®事務局 4名

### Ⅲ. 活動の成果

コアラカフェ®プログラムは、2017年4月から2018年2月の間に計6回開催した。その間の参加者は、子どもは延べ17名（小学1年生、4年生、5年生、6年生）、保護者は延べ11名（患者・患者の配偶者）、ファシリテーター・スタッフは延べ46名であった。これらの者がコアラカフェ®への参加を決めたきっかけは、CLIMB®からコアラカフェ®を紹介されたことであった。このうち1家族の保護者は、帝京大学医学部附属病院で治療中であった。繰り返し参加したのは子ども3名、保護者2名であり、参加を中断した子どもは1名であった。中断の理由は、中学校への進学準備のためであった。連続して6回参加したのは、初回参加後に父親ががんで亡くなった兄妹とその母親であった。この2名の子どもたちの初回から6回目までの行動を観察すると、初回のプログラム参加中には父親のがんを心配する発言があり、落ち着きがなく、遊びに集中できない様子であったが、参加回数が増えるにつれ、笑ったり大声を出したりしながら仲間と一緒に遊ぶようになった。

一方、この子どもたちの母親へのインタビューでは、次のようなことが語られた。夫ががんとを患っている人など周りには一人もいなかった。そこでインターネットで藁にも縋る思いでサポートしてくれる場所を探していた。この家族にとってコアラカフェ®という場所は、【ありのままの自分を出せる場所】、【自分をよく理解してくれる人たちがいて安心できる場所】、【同じ思いを抱えている仲間と繋がれる場所】であり、参加を継続することにより【家族にとって当たり前場所】になっていった。子どもたちにとっては【学校の友達には言えないことが話せる場所】であった。そして母親にとっては【気持ちが楽になる場所】であり【糧になる場】であった。

### Ⅳ. 今後の課題

#### 1. がんという病気や治療に関する知識の提供

現在継続参加している子どもは、親と死別後の子どもである。そのため、コアラカフェ®のポリシーの一つである「がんという病気や治療に関する知識を提供する」ことについては実施できていない。今後、親ががん治療中の子どもが参加するようになり、がんという病気や治療について知りたいというニーズが生じた場合には、いつでも個別に対応できるような準備が必要である。また参加する子どもたちに、「お父さんやお母さんがかかっているがんという病気や治療について知りたいと思ったら、いつでも聞いてくださいね」というメッセージを送り続けることも重要である。

## 2. リクルート活動

リクルート活動については、これまでも帝京大学医学部附属病院の看護部、および各診療科の医師、虎の門病院の看護部、板橋区内・北区内の小学校・中学校、板橋区・北区の保健センター、板橋区女性支援センター等に説明に行ったり、コンビニエンスストアや薬局にチラシを置かせてもらったり、最寄り駅にポスターを貼ったりしてきたが、実際のリクルートにはつながっていない。

今後は以下のような方法で、地道にリクルート活動を継続する。

- 病院内の勉強会等で、病棟看護師への啓発活動を行い、小学生の子どもをもつがん患者に直接コアラカフェ®について説明してもらい、チラシやリーフレット、カード等を手渡してもらう。
- 次年度から徐々に小学校で行われる「がん教育」では、「がん教育」を行う前に担任が、がん患者である児童や、親のがんを知らされた児童をあらかじめ把握することを文部科学省が推奨している。これまでは、親ががん患者であっても学校に知らせることはほとんどなかった。しかし今後は「がん教育」の事前把握により、小学校の養護教諭や学級担任が、親のがんを知らされた児童の存在を把握しやすくなると思われる。コアラカフェ®が小学校の養護教諭や学級担任と繋がっていれば、リクルートできる可能性がある。

## V. 活動の成果等の公表予定

【雑誌】寺田由紀子：がんサバイバーの親をもつ子どもに寄り添う「コアラカフェ®」, YORi-SOU がんナーシング, 8(1), P80, 2018.

【国内学会】2018年4月29、30日開催：日本在宅医学会 第20回記念大会（東京、高輪）

- 演題名：親のがんを知らされた子どもをサポートする「コアラカフェ®」の活動について
- 発表者：南川雅子，寺田由紀子，他3名

【国際学会】2018年9月23日～26日開催：International Conference on Cancer Nursing (Auckland, New Zealand)・・・演題登録中、採択待ち

- 演題名：KOALA CAFE® : Support for children told of their parent's cancer in Japan
- 発表者：寺田由紀子，南川雅子，園山真由美，岩崎啓太郎，他6名